



ひが輝る人

「多くの人に幸せになってほしい」という一心で

おぐらや民芸店 小椋 昌雄さん(岩井)



師走の真っただ中の12月、岩井にある「おぐらや民芸店」を訪れると、今年の干支である寅の木彫りの人形を作成していました。作成しているのは、鳥取伝統工芸士に認定されている小椋昌雄さん。

どんなことがあっても、前へ突き進んでいく力強い寅。長引く不況で先の見えないこの時代に、勇気づけられようと全国各地から注文が殺到しています。また、阪神タイガースファンの方も買い求めることもあって、例

年より注文が多いとか。

実は、小椋さんは5年前、脳卒中で倒れました。現在、岩美病院や自宅でリハビリに励んでいるものの左手等が自由に動きません。このような中で、干支の絵付けをするのは、容易なことではありませんが、「永く続いた伝統を守っていきたい。多くの人に幸せになってもらいたい。」という一心で、ひと筆ひと筆丁寧に描いていきます。この姿がテレビや新聞等で報道される度に、同級生などから、「自分もがんばらなくては...。」等勇気づけられたと、お手紙をいただくことが多いようです。

どんなことがあっても前に突き進む - それはまさに小椋さんの姿。小椋さんに勇気と元気をもらった素敵な取材でした。皆さんも今年もがんばりましょう。

解放文化祭 盛会に終わる



第17回岩美町部落解放文化祭を去る11月21日(土)22日(日)の2日間にわたり開催したところ、天候にも恵まれ大勢の参加者で賑わいました。

この文化祭は部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消を図るとともに、地域住民との交流をより一層深めるため毎年開催しています。

今年も町内の小・中・高校生による意見発表や人権標語等の作品展示、(財)反差別・人権研究所みえの松村 智広さんをお招きしての講演会などの人権学習や岩美中学校英語助手のローラ=フラールさんに

よる国際交流、鳥取市気高町の太鼓集団「ひかりなつだいこ輝夏太鼓」による演技、また町内の皆様や各種団体の方々による作品の展示や出店他、催しを盛り上げて頂いたこと大変感謝しております。また、チャリティーバザーでは皆さんの善意によって集められた収益金を岩美町社会福祉協議会へ寄付させて頂きました。

このように大勢の皆様のご理解ご協力により、解放文化祭が盛会のうちに終わることが出来ました事、心より厚くお礼申し上げます。

第17回岩美町部落解放文化祭実行委員会

実行委員長
恩志隣保館長 村島 秀美



編集後記

1910年(明治43年)6月に岩美駅が開通し、今年は100周年となる記念すべき年です。現在の駅舎は、1994年(平成6年)天皇・皇后両陛下が全国植樹祭(兵庫県)に出席する前に岩美町をご訪問の際、リニューアルされたものです。自家用自動車普及した現在、列車を普段あまり利用されない方も多いと思いますが、100年の歴史を感じながら、今年一度は乗ってみませんか。 なか



今月の納税

町 県 民 税<第4期>
国民健康保険税<第4期>

2月1日月